

# 資料編

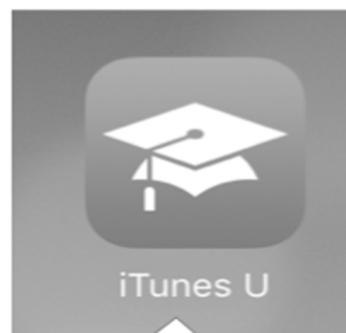
## iTunesUを活用した「英語教師塾」の 設定方法と活用方法の研修

(注) iPadの画面で説明をしております

iPhoneは若干レイアウトが異なりますが  
機能は同じです

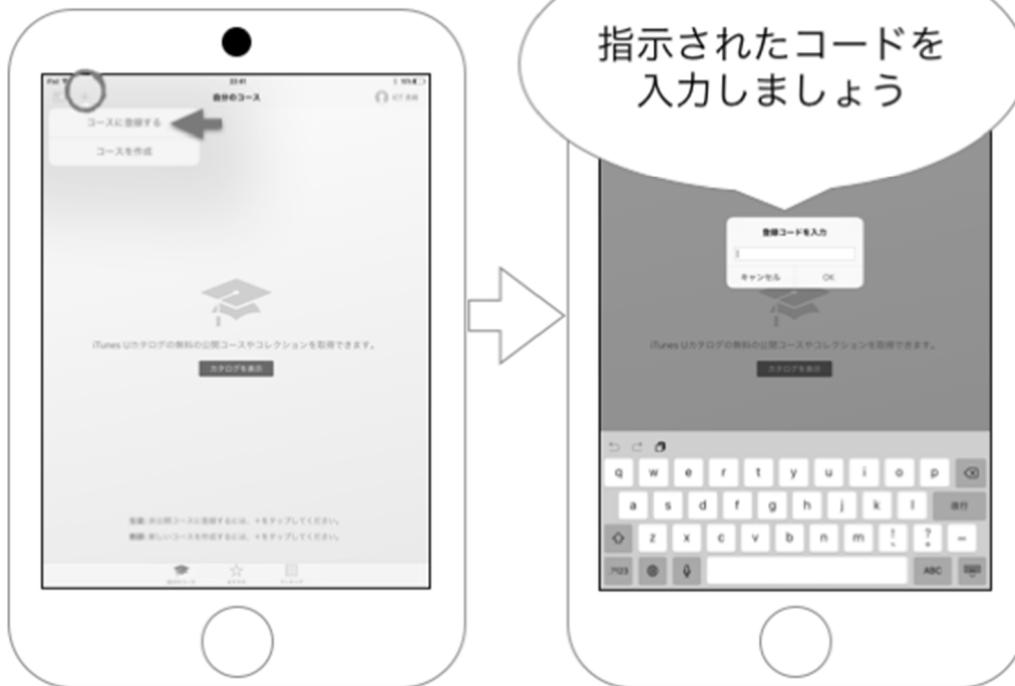
長崎大学教育学部, 倉田伸  
Faculty of Education, Shin Kurata

### ・ 設定 (1) iTunesUの起動



アイコンをさがして  
タップしましょう

・ 設定 (2) コースの追加



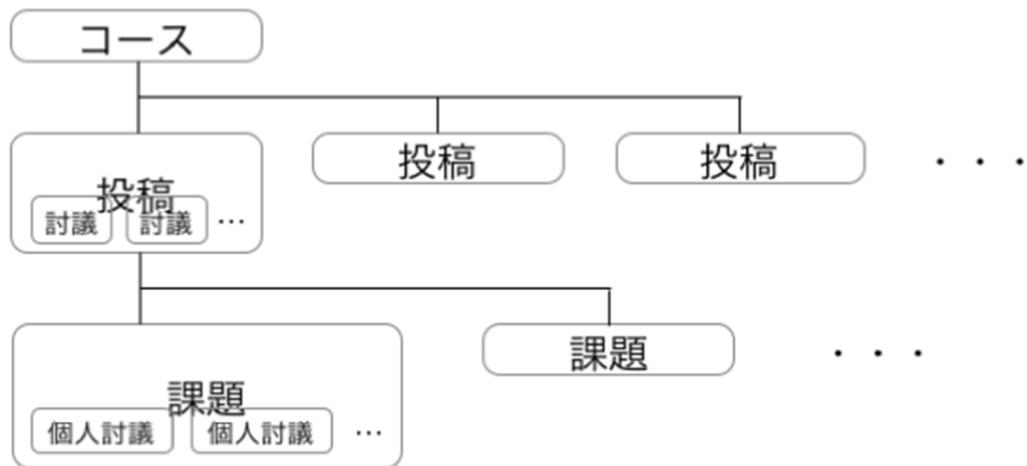
・ 設定 (3) コースの追加



・ 活用（1）コースの選択



## コースの構成



- 討議 → コース受講者内での情報共有
- 個人討議 → 講師と学習者の間での情報交換

## ・ 活用（２）投稿の選択



## ・ 活用（３）討議の活用



## ・ 活用（４）課題の選択



## ・ 活用（５）課題（アプリ）の選択



・ 活用（6）課題（PDF）の選択



・ 活用（7）課題（ビデオ）の選択



・ 活用（8）課題（Webページ）の選択



・ 活用（9）課題（個人討論）



## おわりに

長崎大学教育学部は、長崎県における教育施策を踏まえ、地域に根差した教員養成を行うために、昨年度（平成 27 年度）に『複式学級での ICT 活用による小学校外国語活動指導力育成カリキュラムの開発（文部科学省委託「総合的な教師力向上のための調査研究事業」）』を発刊した。本事業は、それに続く提案として、教員養成塾（「教師塾」）を活用した教員の育成に焦点を当て、その調査研究を企図したものである。

小学校英語の教科化が決定したことにより、教師の持続的な資質向上が求められる一方で、長崎県には数多く離島があるため、地理的な制約を解消し、負担の少ない教員研修や教師教育も期待されている。調査してみると、小学校外国語活動の指導に課題を抱えている教員が少なくないこと、なかでも、外国語活動という新たな授業科目への戸惑い、自らの英語力に関する心配、発音、文字、異文化理解教育の指導に関する不安、外国語活動の研修に寄せる期待など、さまざまな声が聞かれた。研修への期待については、遠方の学校に勤務していると気軽に授業参観や研修に参加できなかつたり、学校行事のため参加できなかつたり、参加できたとしても宿泊を要するなど、教員が負担を感じる場合のあることが窺われる。

このことから、本調査研究では、小学校英語に関して ICT を有効に活用し、本土と離島や遠隔地を結び、教員研修を行うことを考えた。誰にでも簡単に使えるノートパソコンやタブレット端末等を用いて、好きな時に、好きな場所からアーカイブコンテンツに接続すれば、物理的な距離の隔たりを越えた学びや対話が可能となり、小学校外国語活動の研修や教材に資すると思われる。学校教育の現場は多忙であるため、アーカイブのコンテンツは、教員が初めから作るのではなく、ダウンロードできる資料があれば役立つであろうし、研修にも、授業にも使える教材もあると重宝するであろう。しかし、一年間限定の調査研究であったため、アーカイブのコンテンツは網羅的ではない。今後、複式授業に関するもの、授業や活動の評価ポイントもわかる授業場面など、現場の先生方のご要望も参考にしながら、徐々にコンテンツを増やすことができると考えている。読者諸賢よりご意見等賜らば真に幸いである。

本調査研究の実施に当たっては、長崎県教育委員会よりご支援を賜ったが、とりわけ五島市教育委員会の小嶋裕紀子先生、福岡県教育センターの大田亜紀先生、五島市立崎山小学校（現在、長崎市立西浦上小学校）の野口将信先生、島根県雲南市立吉田小学校の村尾亮子先生、同吉田中学校の高田純子先生、沖縄県宮古島市立南小学校の平良優先生には、遠路当地にお見えくだされ、また折にふれて、協力や助言を惜しみなく頂いた。末尾ながら、ここに記して深甚の謝意を表したい。

2017 年 3 月 26 日

長崎大学教育学部副学部長  
松元浩一



「学び続ける専門家」としての教師に地理的格差を越えて資する ICT を用いた英語教師塾カリキュラムと実践方法の開発 委託事業成果報告書

---

平成 29 年 3 月 26 日発行

編集・発行者 長崎大学教育学部

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

電話 (095) 819-2263

印刷・製本 株式会社 クイックプリント